

## 平成27年(2015年)度 事業報告書

自平成27年4月 1日

至平成28年3月 31日

## I. 事業

## 1. 事業概要

平成27年度は「総合支援事業」、「ケアマネ事業」、「子育て応援隊事業」を筆頭に事業収入が拡大し、その他の事業も前年度同等の事業規模を確保できた一年となった。

## 「居宅介護支援事業」「訪問介護事業」「総合支援事業」

従事者の体制を強化し、相互に連携しながら法人全体の事業基盤の核としての事業を継続できた。特に居宅介護支援事業と総合支援事業については安定した伸びを見せた一年となった。

## 「スマイル事業」

運営の体制や情報共有、地域連携を常に改善し、職員同士の関わりも密にして事業に取り組み、前年度の事業規模を確保できた。

## 「子育て応援隊事業」

利用者のニーズの拡大にも安定して対応し、昨年度を上回る事業規模となった。

## 「児童デイ事業」

2フロア運営を安定してこなし、利益率の低い地域ニーズや困難な事例に職員全員で取り組み、多数の児童支援を行ないつつ収益の確保ができた。

## 「サロン事業」「独自(子育て)事業」

これまでの運営の信頼感を元に、地域や関係機関とも連携するための拠点としての地位を確立しつつ、収益を確保できた。

- ・今年度も職員の待遇改善、特別手当等の充足等、「職員重視」の観点で教育の充実や定例会において外部講師の招いた資質教育、各種表彰を駆使し、適正な評価をすすめた。
- ・事業部横断のイベントや連携と地域のコミュニティや各機関との協力を進め、活発な事業展開、運営を実施し、ブランドイメージを向上や15周年の関連イベント等も実施した。
- ・毎朝の唱和の際に、持ち回りで、理念にある「心のふれあいエピソード」を話す事で発信力が高まった。
- ・法人経営としても、月次で事業ごとの収支に管理費を配賦して、より正確な収支の把握を進め、キャッシュを適正に把握しながら、借入金の返済を行いつつ、収益確保と適正支出、税金対応を行う事ができた。
- ・各顧問のみならず、多様な外部の第三者視点も加えながら、行政に対しても積極的に働きかけ、組織力の安定化を図った。

## 2. 事業活動概要

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事人数	受益対象者の 範囲及び人員	売上実績 (千円)
介護関連	居宅介護支援事業所 「ぶらちなぶらん」 ・ケアプラン作成事業	9:00-18:00	利用者宅	4人	のべ 1,351人	14,235
	訪問介護 ・介護保険訪問介護事業	24時間毎日	利用者宅	40人	のべ 474人	23,065
	小規模多機能型居宅介護 「スマイルぶらちな」	24時間毎日	スマイル施設及び利用者宅	22人	のべ 登録215人	63,837
障がい 関連	総合支援 ・総合支援、居宅介護事業 ・ガイドヘルプ、生活支援(身体介護・家事援助・外出介護)	24時間毎日	利用者宅及び介助先	40人	のべ 790人	56,555
	ぶらちな児童デイ ・放課後等デイサービス事業	平日9:00-19:00 (送迎時間含)	ぶらちな事務所1F,2F	12人	のべ 3,073人	25,818

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事人数	受益対象者の 範囲及び人員	売上実績 (千円)
子育て 関連	あだち子育て応援隊 (子育てホームサポート事業) ・一時保育 ・月ぎめ保育	6:00-22:00	利用者宅	サポーター のべ 2,072人	のべ 13,774人	70,485
		8:00-18:00	利用者宅及 び支援者宅		のべ 118人	
子育て 関連	新田キッズルーム ・幼稚園送迎ステーション事業 ・地域人材連携サロン事業	送迎ST 平日7:30-9:30 16:00-19:00 サロン 平日10:00-16:00	新田キッズ ルーム (新田3)	4人	のべ 送迎ST 240人 サロン4,672人	13,422
	ちびっこガーデン(子育てサロン 西新井) ・子育てサロン事業	10:00-16:00 (閉館日除)	ちびっこ ガーデン(栗 原1)	8人	のべ 一時預717人 サロン92,605人	
	サポーター養成講座	夏/秋2回	げんき /学びピア	5人	82名	539
	地域保健センター/男女参画プラ ザ集団保育事業 一時保育独自サービス	9:00-18:00	区内各保健 センター	489人	985人	1,970
		利用者宅	179人	185人		

### 3.事業の成果

#### (1)居宅介護支援事業所「ぶらちなぶらん」

・利用者が自らが自立した在宅生活ができるよう、各種の制度、サービス、社会資源を活用し、関連機関、事業所、ご家族と連携して、共通の認識のもとに目標を設定して、チームによるケアを心がけ、個々のニーズに応じた利用者本位の介護保険サービスが提供出来る様努めることができた。

具体的には、病院から「在宅は絶対無理」と言われた方も医療・介護サービス・地域資源を10サービス程、組込んでご本人とご家族が望む在宅生活の支援をした。

・利用者に対して専門性の高いプランが提供出来る様、都、区、地域包括等の研修に30回以上参加し、自己研さんに努めることができた

・利用者自らが希望する、その人らしい日常生活が自立して出来る様、課題を適切にとらえ、問題提起と解決を図るため地域社会資源、国、介護保険制度、関係機関に対し、主任ケアマネを中心【地域包括ケアシステム】や【終末期】等について意見する事が出来た。

#### (2)訪問介護事業/障がい者総合支援事業

・その人らしい生活、自立支援を重視した計画を立案し、ケアマネージャー、ご家族、地域、行政等の各機関と連携を取りながら、必要なサービスを提供する事ができた。

・第三者評価、実務指導を受け、「自立支援」「心のふれあい」「社会作り」をキーワードに改善に努め、より質の高いサービスを提供できるようになった。

・定例会も法人全体の取り組みとして実施し、外部の専門家や行政機関の協力を得ながら、たん吸引や同行援護等の資格取得や全体資質の向上につなげる事ができた。

・相談支援事業の開所準備を行い、次年度よりスタートする事ができた。

#### (3)小規模多機能型居宅介護「スマイルぶらちな」

・運営推進会議を2ヶ月に1度のペースで定期的開催した。また、その周知活動を職員一丸となつて取り組んだ結果、近隣の施設や住民の方、ボランティアの皆さんと利用者の交流機会となった。

・スタッフ一人一人の意識が向上し、定例会、勉強会への出席者が増え、結果自分で考え発言する習慣が定着化した。

・若手職員からの発言も増え、そのアイデアにより、敬老会や介護定例会、運営推進会議等を同時に組み合わせた事は地域包括等から高い評価を頂く事となった。

#### (4)児童ディサービス

- ・定員20名で2フロアを使用し、障がいに応じフロアを分け運営しているが、利用児童確保の為パンフレットの見直しや所管へのあいさつ回り、ブログやお便りを精力的に広報誌、定員に達している曜日も増えており、職員一丸となって可能な限りのサービスの供給を行うことができた。
- ・支援内容として、昨年度に引き続き屋外での支援やおやつ作りを積極的に取り入れる活動を実施した。近くの公園(下の公園・しょうぶ沼公園・東綾瀬公園など)への散歩やスマイルぷらちなの高齢者との交流(誕生会・おやつ作り)近くの作業所(なないろ園)への買物トレーニングを積極的に行った。
- ・夏休み等の長期休暇の際には、大谷田公園でバーベキュー・明治乳業見学・葛西臨海公園・水族館・区内生物園など平日には訪れるのが難しい場所へ出かけ、子ども達から「楽しかった」「また行きたい」「次はどこに行くの？」などの声や、保護者の皆さんからも「貴重な体験・経験をありがとうございます」など感謝の声が多く寄せられた。

#### (5)あだち子育て応援隊(子育てホームサポート事業)

- ・職員や外部の講師の講演を増やしたり、フォローアップ研修等定例会の内容を充実させた事で、サポーターの出席率も良くなり、資質のレベルアップを図る事ができた。
- ・各エリアとも一時預かりの依頼が増加した事に加え、月ぎめ保育の依頼も増加した。
- ・養成講座の運営や新たなコーディネーター要員の増強等を実施し、指導経験と体制強化を行う事ができた。
- ・先駆者の事業所として制度自体に対しても積極的に意見を行政に対して提案し、事業の適正化に働きかけ、一歩を進める事ができた。

#### (6)新田キッズルーム

- ・区と協働事業の幼稚園送迎ステーション事業、地域の親子サロンの運営において、サロン運営については運営費が出ていないが利用者の組織化と更に踏み込んだ活動の活性化を促し、地域で作り上げる施設を目指し、様々な方々の協力を得て企画やイベントを実施してきた。
- ・送迎ステーションはキャンセル待ちが常に発生する状況が続いているが、OB保護者主導によるチャリティバザーは自主制作の手芸品販売などの収益金をキッズルームの設備改善に役立てて、地域で作り上げる場の雰囲気浸透してきている。
- ・ヒヤリハット事案が発生した際の対応を迅速に行い、保護者の方や関係所管への報告を迅速かつ適正に行う事で、結果的に信頼感を高める事に結び付いた。
- ・養成講座の運営や受講参加を勧め、最新の子育て関連知識を習得する事ができた。

#### (7)ちびっこガーデン

- ・他の子育てサロンと比較にならないほど、区内外様々な利用者が多数訪れる中で、利用者の気持ちに配慮し、接遇をチームで考え対応する姿勢が根付いた。
- ・課題をチームミーティングで整理し、改善策についてチームで検討、解決の方法やより良い対応を考え合う事でチームの一体感と互いの信頼感が生まれ、一人一人が主体性を持った行動が定常化した。
- ・養成講座の運営や受講参加を勧め、最新の子育て関連知識を習得する事ができた。

#### (8)サポーター養成講座

- ・ぷらちなくらぶの経験、人脈、つながりを生かした講座組み立てと運営が実施できた。
- ・しっかりとした意識をもったサポーターを養成し、即戦力として活躍できるサポーターの育成に努める事ができ、ヘルパー要員としての活躍や地域連携のきっかけとなる人材も発掘できた
- ・キッズルームやちびっこガーデン、独自事業を活用し、不安要素に対して経験の場を提供する事で、ぷらちなくらぶの姿勢の認知につながった。

#### (9)地域保健センター/男女参画プラザ集団保育事業

- ・リーダーに対する指導を徹底し、コーディネートに手間がかからない様、効率化した運営を進める事ができた。
- ・サポーター資格を持たない人材を活用しながら、育成し、将来のサポーターの養成につなげる仕組みを作り上げる事ができた。
- ・安定した事業運営が評価され、他の公的な機関からの依頼や問い合わせが増加した。

#### (10)一時保育独自サービス

- 公的サービスでは対応できないニーズに対するこの取り組みが評価され、紹介による依頼が増加した。

## Ⅱ.組織運営関係全般

- ・職位等級制度、キャリアパス、法人内教育体系を整理し関連付け、昇給の取り組みをルール化に取り組んだ
- ・地域との交流、他団体や人材交流を積極的に進め、ぷらちなくらぶの強みを社会に対して生かす方を一緒に考え、外部の人や組織が持つ力やつながりを吸収、活用して、法人の独自性や関係性を構築することを進めた。
- ・部門ごとにキーとなる人材に対して、重点育成し、責任範囲を明確にして、組織醸成に取り組んだ。
- ・外部のリソースを活用して、アウトソース活用できる部分を試行した。
- ・ぷらちなくらぶ独自の社内制度(各種表彰[MVP賞4名、ベストオブヒヤリハット賞1名、永年勤続(10年)賞21名]、地域交流、教育受講)を広げ全体事業の幅を広げる事ができた。
- ・新規事業として相談支援事業を開設することが出来た。

## 平成28年(2016年)度事業計画(案)

自 平成28年4月 1日  
至 平成29年3月 31日

## I.事業

## 1.事業概要

## 【心のふれあい、自立支援、社会作り】

生活者視点での三丁目の夕日構想・子どもも若者も高齢者も、各々の個性を生かしながら、社会に関わる様、新たなサービスを展開していく。各事業において、5つの柱を念頭に、改善をしながら事業をすすめ、コスト/効率化の意識をもち、各自が主体性を持ちながら他事業との連携し、法人全体で取り組んでいく。また、地域包括ケアシステム構築に向けた地域作りを進める。

## (1)利用者本位

・その人らしさを適切にとらえて、個性として生かす事に焦点をあてた支援を計画的に実施する。

## (2)職員重視

・法人理念や利用者本位を支えるための職員教育(学び合い)。自己向上や経済的保障を踏まえ、個別面談を活用し、定性的な価値もきちんと評価する。

## (3)安心と安全

・リスクマネジメントの勉強会(対利用者だけでなく組織や社会的な立場での考え方、方法の学び)、行動の抑制や禁止ではなく、利用者/職員自身の対峙能力(危険予知、回避、防御など)の向上を目指す。

## (4)地域密着

・他事業、他団体、企業、学校などとの連携。地に足を付けて生活をする、人の感性に重視し、広く社会の資源を活用。

## (5)独自性

・現場の実情を反映した制度を目指して、周囲に積極的に関わりながら、柔軟に発想を転換しながら、人々が幸せになる社会の仕組みを作り上げる。

## 2.事業活動概要

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事人数	受益対象者の 範囲及び人員	売上計画 (千円)
介護関連	居宅介護支援事業所 「ぷらちなぷらん」 ・ケアプラン作成事業	9:00-18:00	利用者宅	4人	のべ 1,500人	16,000
	訪問介護/総合事業 ・介護保険訪問介護事業	24時間毎日	利用者宅	40人	のべ 600人	30,000
	小規模多機能型居宅介護 「スマイルぷらちな」	24時間毎日	スマイル施設 及び利用者宅	22人	のべ 登録300人	75,000
障がい 関連	総合支援/相談支援事業 ・総合支援、居宅介護事業 ・ガイドヘルプサービス、生活支援 (身体介護・家事援助・外出介護)	24時間毎日	利用者宅及 び介助先	45人	のべ 900人	60,000
	ぷらちな児童デイ ・放課後等デイサービス事業	平日9:00-19:00 (送迎時間含)	ぷらちな事 務所1F,2F	10人	のべ 4,500人	36,000
子育て 関連	あだち子育て応援隊 (子育てホームサポート事業) 一時保育、月ぎめ保育、ホーム ヘルプ(産前産後家事支援)	6:00-22:00	利用者宅	サポーター のべ 2,000人	のべ 12,000人	65,000
		8:00-18:00	利用者宅及 び支援者宅		のべ 100人	

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事人数	受益対象者の範囲及び人員	売上実績(千円)
子育て 関連	新田キッズルーム ・幼稚園送迎ステーション事業 ・地域人材連携サロン事業	送迎ST 平日7:30-9:30 16:00-19:00 サロン 平日10:00-16:00	新田キッズ ルーム (新田3)	4人	のべ 送迎ST 240人 サロン5,000人	13,000
	ちびっこガーデン(子育てサロン 西新井) ・子育てサロン事業	10:00-16:00 (閉館日除)	ちびっこガー デン(栗原1)	10人	のべ 一時預700人 サロン90,000 人	
	サポーター養成講座	夏/秋2回	げんき /学びピア	5人	80人	430
	地域保健センター/男女参画プ ラザ集団保育事業 一時保育独自サービス	9:00-18:00	区内各保健 センター	500人	900人	2,000
		利用者宅	180人	180人		

### 3.事業目標

#### (1)居宅介護支援事業所「ぷらちなぷらん」

- ・地域に生活する要介護者自身の心身の状況やその家族のニーズを正確に捉え、個別に有する様々な能力や意欲を引き出し、自立支援につながるプランを提供していく。
- ・医療をはじめ他事業と連絡調整を行い、専門的知識を提供し、要介護者のニーズに沿ったプラン作成に努める。
- ・利用者に対して、社会資源の紹介や専門性の高いプランが提供できる様、都、区、地域包括等の研修会に参加する。
- ・主任CMによる、スーパーバイズ機能の強化を、法人内部全6名のCMと共に行う。
- ・当法人の他事業の定例会・勉強会に参加し、別の視点から利用者情報の収集に努める。

#### (2)訪問介護事業/障がい者総合支援事業/相談支援事業

- ・法人理念に則り、職員の人材育成、処遇改善のため、事業所加算の条件を見据え、サービスを受ける側、提供する側双方にメリットある環境づくりを目指す。
- ・これまでの独自サービスを適正化し、現状のニーズに幅広く応えられるように整備。
- ・相談支援事業を進め、心のふれあいを大切にしながら、その人らしい生活が出来る様、ともに考え、様々な関わりを大切にしつつ、新規事業として確立していく。

#### (3)小規模多機能型居宅介護「スマイルぷらちな」

- ・地域住民・近隣施設との交流と、外部への情報発信の強化。
- ・地域の方々に参加を要請する催し事について内容・回数を充実させるとともに、案内状の配布・説明等、コミュニケーションの場を増やす。また周知する範囲を広げることによりぷらちなくらぶ(スマイルぷらちな)を一人でも多くの方に知っていただく。
- ・催し事内容について新しい試みとして「ぷらちなカフェを実施し、手作りのお菓子と飲み物提供。スペースに利用者の作品を多数展示する。」等 新提案を随時、地域住民 近隣施設、地域包括支援センターを中心にお知らせする。案内状の配布について他事業部に応援要請すると共に掲示板も活用していく。
- ・教育研修により職員のスキルアップと利用者の安心・安全性を高める。
- ・基本となる食事、排せつ等の介助を生活リハビリの視点を強化し職員全員で学ぶ、また、認知症についての学習でコミュニケーションの取り方を見直し、安全性、安心感を向上する。また、それらを学習するための場として法人内研修はもとより、小規模多機能連絡会等で行われる研修会等も活用する。

#### (4)児童ディサービス

- ・区内でも30ヶ所を超える事業所が設立され、支援を必要とするお子さんの量的ニーズはほぼ満たされる環境が整ってきつつある。これまで以上に事業所の特色である高齢者との関わりや地域との関わり全面に打ち出しつつ、利用者増に加え、自立の為の支援を追及し、一人一人の個別性に合った支援を追求していく。
- ・職員のスキルアップ及びワークライフバランスを維持できるように情報共有、職場環境を確立していく。
- ・児童一人一人に合わせた自立支援の場として個別支援計画を立て、支援目標を意識して支援していく。

#### (5)あだち子育て応援隊(子育てホームサポート事業)

- ・定例会の内容を常に工夫しながら充実させ、サポーターの一層のレベルアップを図る
- ・ヒヤリハット等の報告率が上がるよう働きかけながら、内容を正確に的確に記述できる様、サポーターのスキルを向上させるよう指導/教育の場を活用していく。
- ・コーディネート業務の定型化やドキュメント化を図り、増大している業務にチームで対応出来る体制を整えていく。

#### (6)新田キッズルーム

- ・より、地域の場として活用頂くために、協力団体や個人などと連携し、アイデアを出し合いながら、楽しく触れ合う場所としての可能性を高めていく
- ・時代の流れや地域の移り変わりの状況を踏まえ、発生する課題にチームで取り組み、地域住民と一緒に考え運営に取り組んでいく
- ・安全に配慮し、リスクに対応する能力向上について、教育/研修/他施設との情報交換を活用していく。

#### (7)ちびっこガーデン

- ・スタッフの自主性を高め、課題共有や解決方法をチーム内で導く能力を高めるために、指定管理業者との関係性を考慮しながら報告や相談を迅速かつ正確に行っていく
- ・幅広い層の利用者に対して、配慮と気持ちに寄り添った接遇を心掛け、振り返りと改善を実践していく。
- ・安全に配慮し、リスクに対応する能力向上について、教育/研修/他施設との情報交換を活用していく。

#### (8)サポーター養成講座

- ・しっかりとした意識をもったサポーターを養成し、即戦力として活躍できるサポーターを育成に努める
- ・ぶらちなくらの姿勢を示し、他事業所も導きながら事業全体の健全運営に尽力する
- ・今後の法人活動に活かせるよう、講師の方々との関係を構築する。

#### (9)地域保健センター/男女参画プラザ集団保育事業

- ・経験の浅いサポーターの修練の場として、また、リーダーとしてまとめる経験の場として活用する。
- ・各拠点自体との信頼関係を構築し、今後の法人活動において地域ごとの関係性を強めていく。

#### (10)一時保育独自サービス

従前同様、公的サービスでは対応できない地域ニーズに対し社会的役割を担って行く。

## II.組織運営関係全般

- ・各事業部に事務長職を配置し、管理者/責任者と連携しながら事業部の自立性を高め、経営的な視点も事業部の中に盛り込みながら事業運営する体制を構築する。
- ・新規の相談支援事業を窓口として、総合的な障がい支援の相談/計画/支援をワンストップで実施して、既存事業の展開を進めて行く
- ・事業拡大、法制度改定などに伴う経営リスクを正確に把握し、法人としての準備、体制を整え事業運営に取り組む。
- ・法人理念、方針の柱を職員一人一人が自ら考え、チームとして行動出来る様な体制を進めて行く。
- ・教育受講や表彰制度の活用を促しながら、適正に評価して、働く環境の向上に努める

平成28年度 特定非営利活動に係る事業会計 活動計画書

自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日

第4号議案

特定非営利活動法人 ぶらちなくらぶ

(単位:円)

科 目	金 額	額
I. 経常収益		
1. 会費・入金収入		
正会員会費	147,000	
会費・入金収入 計		147,000
2. 事業収入		
ケアマネ事業	16,000,000	
訪問介護・総合支援事業	90,000,000	
小規模多機能型居宅介護事業	75,000,000	
児童デイサービス事業	36,000,000	
子育て支援事業	80,430,000	
事業収入 計		297,430,000
3. 助成金・寄付金収入	900,000	
助成金・寄付金収入 計		900,000
経常収益 計		298,477,000
II. 経常費用		
1. 事業費		
ケアマネ事業費		
人件費	12,000,000	
その他事業費	320,000	12,320,000
訪問介護・総合支援事業費		
人件費	70,000,000	
その他事業費	500,000	70,500,000
小規模多機能型居宅介護事業費		
人件費	47,000,000	
減価償却費	2,000,000	
その他事業費	12,000,000	61,000,000
児童デイサービス事業費		
人件費	18,000,000	
減価償却費	60,000	
その他事業費	3,600,000	21,660,000
子育て支援事業費		
人件費	70,000,000	
その他事業費	1,400,000	71,400,000
事業費 計		236,880,000
2. 管理費		
(1) 人件費		
給与手当	14,000,000	
法定福利費	4,000,000	
福利厚生費	3,000,000	21,000,000
(2) その他経費		
旅費交通費	1,500,000	
採用教育費	1,000,000	
通信運搬費	2,000,000	



平成27年度 決算報告書

第 15 期

自 平成27年4月1日

至 平成28年3月31日

特定非営利活動法人 ふらちなくらぶ

平成27年度 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

平成28年3月31日 現在

特定非営利活動法人 ぶらちなくらぶ

(単位：円)

科 目	摘 要	金 額	
<b>資産の部</b>			
I 流動資産			
現金	現金手許有高	467,678	
普通預金	みずほ銀行/綾瀬支店2037635	13,851,517	
	みずほ銀行/綾瀬支店8116855	5,468,584	
	城北信用金庫	2,325,077	
	谷中郵便局	16,358,929	38,471,785
預け金	車両リサイクル預託金	13,980	
仮払金	スタッフ経費仮払ほか 3件	50,769	
未収入金	東京都国民健康保険連合会	27,559,952	
	足立区(委託料他)他	8,985,136	
	利用者負担分	2,303,027	38,912,864
貸倒引当金			-230,000
流動資産 合計			77,154,649
II 固定資産			
(有形固定資産)			
建物	足立区加平1-8-23 232.47㎡	38,037,653	
建物付属設備	スマイル内装工事 電気・給排水・空調・ガス設備 昇降機		
構築物	本部空調設備、3Fサンルーム スマイル造作工事、看板	8,362,425	
車両運搬具	前面歩道改修	6,812,553	
土地	軽自動車1台、ステップワゴン1台	126,061	
	足立区加平一丁目8番33・1 157.18㎡		
	足立区加平一丁目8番46 71.05㎡	77,829,403	131,168,095
有形固定資産 計			131,168,095
(無形固定資産)			
ソフトウェア	介護ソフト2件 ワズマシ IDC ジャニス自立支援ソフト	1,375,988	1,375,988
無形固定資産 計			1,375,988
(投資その他の資産)			
保証金		1,300,000	
敷金		12,000	
長期前払費用	スマイル 更新料	193,050	
公共施設負担金	水道管工事負担金	535,211	2,040,261
投資その他の資産 計			2,040,261
固定資産 合計			134,584,344
資産の部 合計			211,738,993
<b>負債の部</b>			
I 流動負債			
未払金	公募に係る利息 26/10-27/3 19口	151,845	
未払費用	3月分給与 特別手当 3月分社会保険料 支払報酬4件 給食材料費2件 スマイル家賃、更新料 その他諸口6件	30,417,259	
預り金	源泉所得税 社会保険料 住民税	3,886,393	
未払法人税等	当期確定申告分	878,400	
未払消費税等	当期確定申告分	3,318,100	38,651,997
流動負債 合計			38,651,997

Ⅱ 固定負債 長期借入金	日本政策金融公庫 3件 公募による借入 14口	93,342,000	93,342,000	
固定負債 合計				93,342,000
負債の部 合計				131,993,997
正味財産の部				
前期繰越正味財産			74,972,371	
当期正味財産増加			4,772,625	
正味財産 合計				79,744,996
負債及び正味財産合計				211,738,993

平成27年度 (2015年度) 決算報告書

貸借対照表

平成 28 年 3 月 31 日 現在

I 流動資産	77,154,649	I 流動負債	38,651,997
II 固定資産	134,049,133	II 固定負債	93,342,000
III 繰延資産	535,211	III 正味財産	79,744,996
合 計	211,738,993	合 計	211,738,993

活動計算書

自：平成 27 年 4 月 1 日

至：平成 28 年 3 月 31 日

(特定非営利活動損益の部)			
第1項 特定非営利活動法人	271,229,562	第1項 事業費	225,493,534
		第2項 管理費	38,367,118
(特定非営利活動外損益の部)			
第1項 受取利息・雑収入他	73,130	第1項 支払利息・雑損失	1,789,690
		第2項 法人税等	879,725
(繰越利益の部)			
前期繰越利益	74,972,371	次期繰越利益 (当期利益)	79,744,996 (4,772,625)
合 計	346,275,063	合 計	346,275,063

平成27年度 特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

平成28年3月31日現在

特定非営利活動法人 おらちなくらぶ

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部		負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金	467,678	未払金	151,845
普通預金	38,004,107	未払費用	30,417,259
未収入金	38,848,115	預り金	3,886,393
預け金	13,980	未払法人税等	878,400
仮払金	50,769	未払消費税等	3,318,100
貸倒引当金	-230,000		
流動資産 合計	77,154,649	流動負債 合計	38,651,997
2. 固定資産		2. 固定負債	
(有形固定資産)		長期借入金	93,342,000
建物	38,037,653	固定負債 合計	93,342,000
建物付属設備	8,362,425	負債の部 合計	131,993,997
構築物	6,812,553	正味財産の部	
車両運搬具	126,061	前期繰越正味財産	74,972,371
土地	77,829,403	当期正味財産増加額	4,772,625
有形固定資産 計	131,168,095		
(無形固定資産)			
ソフトウェア	1,375,988		
無形固定資産 計	1,375,988		
(投資その他の資産)			
保証金	1,300,000		
敷金	12,000		
長期前払費用	193,050		
公共施設負担金	535,211		
投資その他の資産 計	2,040,261		
固定資産 合計	134,584,344	正味財産 合計	79,744,996
資産の部 合計	211,738,993	負債及び正味資産合計	211,738,993

平成27年度 特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書

自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日

特定非営利活動法人 ぶらちなくらぶ

(単位:円)

科 目	金 額	額
<b>I. 経常収益</b>		
1. 会費・入会金収入		
正会員会費	147,000	
会費・入会金収入 計		147,000
2. 事業収入		
ケアマネ事業	14,235,289	
訪問介護・総合支援事業	79,619,896	
小規模多機能型居宅介護事業	63,837,203	
児童ディサービス事業	25,818,083	
子育て支援事業	85,518,091	
事業収入 計		269,028,562
3. 助成金・寄付金収入	2,054,000	
助成金・寄付金収入 計		2,054,000
経常収益 計		271,229,562
<b>II. 経常費用</b>		
1. 事業費		
ケアマネ事業費		
人件費	11,571,499	
その他事業費	300,340	11,871,839
訪問介護・総合支援事業費		
人件費	62,004,314	
その他事業費	391,226	62,395,540
小規模多機能型居宅介護事業費		
人件費	44,542,897	
減価償却費	2,074,545	
その他事業費	11,178,684	57,796,126
児童ディサービス事業費		
人件費	17,377,304	
減価償却費	62,935	
その他事業費	3,485,195	20,925,434
子育て支援事業費		
人件費	71,019,630	
その他事業費	1,484,965	72,504,595
事業費 計		225,493,534
2. 管理費		
(1) 人件費		
給与手当	11,831,171	
法定福利費	3,277,180	
福利厚生費	2,700,560	17,808,911
(2) その他経費		
旅費交通費	1,503,050	
採用教育費	296,589	
通信運搬費	1,837,340	

消耗什器備品費		1,646,826	
修繕費		48,138	
広告宣伝費		296,104	
保険料		1,375,422	
租税公課		5,372,450	
交際費		126,626	
水道光熱費		649,305	
リース料		1,383,552	
減価償却費		2,570,991	
支払手数料		551,368	
委託料		2,720,277	
諸会費		18,000	
貸倒引当金繰入額		32,000	
雑費		130,169	20,558,207
管理費 計			38,367,118
経常費用 計			263,860,652
当期経常増減額			7,368,910
III. 経常外収益			
受取利息		7,061	
雑収入		66,069	
経常外収益 計			73,130
IV. 経常外費用			
支払利息		1,784,789	
雑損失		4,901	
経常外費用 計			1,789,690
税引前当期正味財産増減額			5,652,350
法人税・住民税及び事業税			879,725
当期正味財産増減額			4,772,625
前期繰越正味財産額			74,972,371
次期繰越正味財産額			79,744,996

計算書類の注記

自 平成27年4月1日  
至 平成28年3月31日

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 定額法 定率法  
無形固定資産 定額法

税法上の繰延資産の処理方法

有効期間にわたり均等償却をしております。

引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒の損失に備えるため、一般債権について法人税法の規定による法定繰入率により、回収不能見込額を計上しています。

リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

消費税等の会計処理方法

税込方式によっております。

2. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 21,691,189円

3. 固定資産の増減内訳

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
建物	43,314,842	0	0	43,314,842	5,277,189	38,037,653
建物付属設備	17,878,900	0	0	17,878,900	9,516,475	8,362,425
構築物	13,507,139	0	0	13,507,139	6,694,586	6,812,553
車両運搬具	769,000	0	440,000	329,000	202,939	126,061
土地	77,829,403	0	0	77,829,403	0	77,829,403
合計	153,299,284	0	440,000	152,859,284	21,691,189	131,168,095

4. 借入金の増減内訳

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
短期借入金	0	0	0	0
長期借入金	105,302,000	0	11,960,000	93,342,000